

事業番号	049
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	小牧市国際交流協会助成事業						担当部	地域活性化営業部		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	シティプロモーション課		
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	にぎわい創出係		
	総合計画 分野別計画	主目的	5 産業・交流		18 シティプロモーション		5 都市間交流の推進および国際感覚を醸成します				
		副目的									
	予算区分	款	7	項	1	目	4	大	4	中	2
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	小牧市国際交流協会を支援することにより、組織の確立を目指し、協会事業の円滑な運営を図ることを目的とする。									
	内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容 日本人市民と外国人市民の共生やふれあいをテーマに日本語教室や日本文化理解講座、プレスクール、国際交流ふれあいフェスタや国際料理教室、会報「つばさ」の発行、国際理解講座、外国語講座、交流団体等の支援など、外国人と日本人が互いに理解し合えるような事業を展開できるよう費用を補助した。 職員は、国際交流ふれあいフェスタなど、人的応援が必要となる場合に適宜支援を行った。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 ・小牧市国際交流協会補助金 16,000千円</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 ・小牧市国際交流協会補助金 17,200千円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額	
			直接経費	千円	16,000	16,000	16,000
費用	正職員	従事者数	人	0.30	0.20	0.20	0.20
		人件費	千円	1,578	1,052	1,052	1,052
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	17,578	17,052	17,052	18,252	
	対前年比	%		97.0	100.0	107.0	
財源	一般財源	千円	17,578	17,052	17,052	18,252	
	国・県支出金	千円	0	0	0	0	
	その他財源	千円	0	0	0	0	

業 績	活動指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	教室等の講座企画数	講座	目標	16	16	16	16
			実績	16	16	16	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	国際交流事業などへの年間参加者数	人	目標	1,900	2,000	2,000	2,000
			実績	2,090	2,048	1,831	
日本語教室の受講者数	人	目標	500	500	500	500	
		実績	427	367	355		

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	国際交流事業などへの年間参加者数、日本語教室受講者数は目標値を下回ったものの、国際交流及び多文化共生を推進するため、国際理解講座や日本語教室、交流会など各種事業を実施した。				
		事業実施における課題	国際交流事業などへの年間参加者数、日本語教室受講者数が減少しているため、内容を見直すとともに広くPRする必要がある。補助金の支出に関しては、国際交流協会の事業を精査し、額の決定を行った。また、リーマンショック以降減ってきた外国人数も下げ止まり傾向にあり、政府の成長戦略では今後技能実習生を中心に外国人を受け入れる方針を示しているため、動向を注視する必要がある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	国際交流の機会及び地域に住む外国人との交流の場が減少する。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	小牧市国際交流協会の設立20周年を記念して11月に記念式典を始め国際交流フェスタを開催する。事業をきっかけに国際交流の裾野を広げるため、ホームページやフェイスブックなどを活用し、情報発信に努める。				
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	景気が回復傾向にあり、今後外国人数の増加が見込まれるため、外国人市民と日本人市民の相互理解を深める交流会など各種事業を継続的に実施していく必要がある。					
	27年度以降の改善案	地域や年齢にかかわらず事業への参加者の増加を図るため、国際交流及び多文化共生推進事業のPRを積極的に行う。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 現状としては、維持と判断するが、助成額については、毎年の外国人数の状況や国際交流協会の事業実績を十分に踏まえた上で決定すること。